

昨年度末にとりまとめられた「明日の日本を支える観光ビジョン」を踏まえて、
文化財を貴重な地域・観光資源として活用するために2020年までに取り組むアクションプログラムを策定しました。

目指すべき将来像

○文化財を中核とする観光拠点の整備

大内宿の茅葺き民家群再生（福島県）

- ・地域の文化財の一体的整備を計画的に行い、観光中心の産業構造へ転換
- ・観光客数は20年間で約100万人増加
- ・収益が修理につながる循環型の文化財保存・活用事業の継続，地元技術者の育成



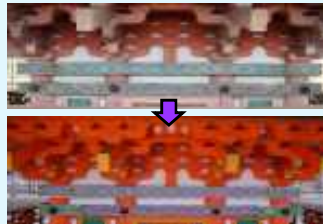
○投資リターンを見据えた文化財修理・整備の拡充と美装化

姫路城天守の大規模改修

- ・総事業費30億円
- ・観覧料収入
2.9億円（H26）
→ 18.7億円（H27）
- ・修理中もガイダンス施設を設置



美装化



○分かりやすい解説と多言語対応

日光東照宮新宝物館

- ・東照宮の歴史や徳川家康の生涯をビデオ等を用いて分かりやすく解説
- ・全ての展示品は、日本の歴史を知らない外国人でも理解できる英語解説がされている



○歴史的建造物の活用促進

西日本工業倶楽部会館

- ・国指定重要文化財を結婚式場等に活用



現状・課題及び今後の対応

現状・課題

- 個々の文化財を点として保存
- 日本人でも理解が困難な，専門家にしか分からない解説
- 修理遅れによる資産価値の低下・劣悪な外観

プログラムのポイント

2020年までに，以下の取組を**1000事業**程度実施し，日本遺産をはじめ，**文化財を中核とする観光拠点を全国200拠点**程度整備。

○支援制度の見直し

- ・支援に当たり観光客数等を指標に追加
- ・地域の文化財を一体的に整備・支援
- ・適切な修理周期による修理・整備
- ・観光資源としての価値を高める美装化への支援
- ・修理現場の公開（修理観光）や，修理の機会をとらえた解説整備への支援 等

○観光コンテンツとしての質向上

- ・分かりやすい解説の充実・多言語化
- ・宿泊施設やユニークベニュー等への観光活用を促進
- ・学芸員や文化財保護担当者等に対する文化財を活用した観光振興に関する講座の新設，質の高いHeritage Manager等の養成と配置
- ・全国の文化財等の情報を発信するポータルサイトの構築
- ・美術館や博物館における参加・体験型教育プログラム等への支援，ニーズを踏まえた開館時間の延長
- ・文化プログラムをはじめとする文化芸術活動との連携 等

○文化財を

ユニークベニュー とした文化イベント

姫路城での オペラ上演

